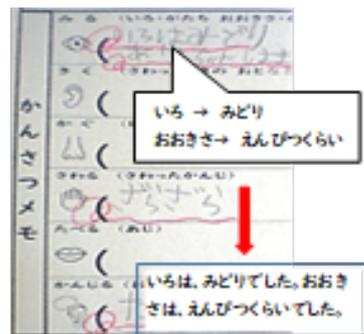


見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くことの指導 ～観察カードなど日常生活と関連付けた事例～			
学部・教科	小学部・国語科	事例コード	2208
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部3学年 話をすることが好きな児童が多く、家での出来事などを進んで話しかけてくる姿が見られる。 話をする時は「昨日、テレビ、面白かった」など、助詞が抜け、語句を並べることが多い。 平仮名で語句が書ける、読むことができるが書けないなど、書くことには実態差がある。 		
単元(題材)名	『文を作ろう』		
学習指導要領の内容	国語科／小学部3段階 [知識及び技能] ア(オ) [思考力、判断力、表現力等] B書くことーウ		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ることができる。【[知] ア(オ)】	見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くことができる。【[思] Bウ】	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする。【小学部3段階ウ】
単元(題材)の計画	総時数 12時間 1 主語・述語の枠に当てはめて文を作る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間 2 助詞の正しい使い方を知り、主語・述語・助詞の枠に当てはめて文を作る。・ 4時間 3 観察カードの書き方を知り、ジャガイモの観察日記を書く。・・・・・・・・ 4時間 4 交流及び共同学習の思い出作文を書く。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間 ※3・4については、生活単元学習や他の活動の振り返り等で継続する。		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 枠に当てはめて文を作る経験を積むとともに、生活単元学習等と関連させ身近な題材で少しずつ詳しく文が書けるように指導した。 教材の「文作りブロック」は、助詞が入らないと主語と述語が付かない仕組み(磁石の吸着と反発を利用)にし、助詞を入れて文を作る練習をした。 観察カードは、五感を使った観察ポイントを設け、簡単な語句で書けるように作成した。文を書く際には、枠に当てはめた文を読んでから書くことで、混乱なく書く姿が見られた。 書くことが苦手な児童は、穴埋めにして書く量を調整した。感想については、イラスト入りの感情カードから選べるようにしたことで、思いに合った表現ができるようになってきた。 		



文作りブロック



観察カード